

長崎県の歴史と 海外交流史を学べる 長崎歴史文化博物館

nagasaki topics

平成17年(2005)11月に開館した長崎歴史文化博物館は、近世長崎の海外交流史をテーマとしています。ここでは鎖国体制の中で西欧に開かれた唯一の窓口として栄えた長崎の町の様子や、出島で行われたオランダとの貿易や商館長の紹介、また中国貿易や日本を訪れた朝鮮通信使などの活動、坂本龍馬やシーボルトなど長崎を舞台に活躍した人々の足跡、青貝細工などの美術・工芸品が展示されています。

また、オランダ船や唐人屋敷の模型や、おくんちの歴史、コンピュータを使って歴史を体験するコーナーもあって、楽しみながら学ぶことができます。

この博物館は、往時をしのばせる外観と長崎奉行所立山役所の一部復元という大変ユニークな建物となっています。復元部分は19世紀初頭の資料に基づき再現し、内部は当時の様子がわかる展示になっています。



平成17年(2005)11月に開館した長崎歴史文化博物館
(提供:長崎歴史文化博物館)

長崎県美術館



平成17年(2005)4月に開館した長崎県美術館
(提供:長崎県美術館)

スペイン美術と 長崎ゆかりの 美術を学べる 長崎県美術館

nagasaki topics

平成17年(2005)4月に開館した長崎県美術館は、「須磨コレクション」と呼ばれるスペイン美術を中心とした、中世から20世紀前半に至る幅広い時代の宗教画や肖像画を収蔵しています。また、ピカソ、ミロ、ダリなどのスペインの20世紀美術を代表する画家たちの貴重な作品も見所です。長崎県出身作家の作品では、彫刻家の北村西望や富永直樹をはじめ、院展を中心に活躍した日本画家・松尾敏男、孤高の人間の姿を描いた洋画家・鴨居玲などがあり、その他、明治以降の長崎ゆかりの作品を収蔵しています。

そして、2階には長崎水辺の森公園に面した「アトリエ」というスペースがあり、絵画、彫刻、工芸など様々な造形活動ができます。

美術館の建物は、ジャーロサンタセシリアというブラジル産のめずらしい石を使用しており、「ルーバー」と呼ばれる、縦の直線が並列に続く、美しいデザインが特徴です。